

| | | | |
|---|-------|------|--------|
| 教員名 | 中村 匡克 | 所属学科 | 地域政策学科 |
| <p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>今日の社会はさまざまな問題を抱えています。本ゼミでは、それらの問題の原因を探るとともに解決策としての政策のあり方について研究します。4年生に課される卒業研究（必修）では、地域活性化や中心市街地再生、農業・農村、交通、犯罪、環境、観光、労働、スポーツ振興、財政、地方分権、選挙など、学生は多様なテーマを扱ってきました。このように多様なテーマについて研究できるのは、経済学の知識とデータ分析の知識・技能によるところが大きいと考えます。</p> <p>経済学と聞くと、景気や株価、企業経営について学ぶとイメージされがちですが、これらはそのほんの一部に過ぎません。特に、ミクロ経済学は、競争市場と価格メカニズム（それゆえ、競争市場を使えないときの問題）および個人や企業の行動様式について教えてくれます。たいていこの問題には人間の経済活動が関わっていますから、こうした基礎的な知識は問題の原因をつきとめ、解決策を考えるうえで役に立つのです。考え方の基本が身につけているからこそ、さまざまなテーマに対応できるというわけです。</p> <p>そして、本ゼミの最大の特徴は、経済学の考え方を政治の分野にも適用して分析する公共選択論について学ぶ点にあります。公共選択論は、民営化や規制緩和、地方分権、新公共経営など「小さな政府」に向けた政策・施策を後押ししてきた研究分野です。公共選択論の視点を身につけると、政治や行政が抱える問題を鋭く見抜けるようになります。</p> <p>また、データを用いて自分の考えを証明してみせる技法として、計量経済学の知識と技能も身につけます。これまでの卒業研究では、ほとんどの学生がデータ分析を活用して論文を作成してきました。</p> | | | |
| <p>【どのように学ぶのか】</p> <p>時間割に定められた演習の時間（90分×30回）には、基礎的な知識の習得につながるテキストの輪読（学生同士の学び合いによる学習方法）およびプレゼンテーション（課外活動として設定されたものの発表）、ディスカッション（プレゼンに対する質疑応答）を行います。</p> <p>輪読では、各回の担当者はレジュメ（テキストの内容を簡潔にまとめたノート）を作成してみんなに配布する準備、それ以外の方はテキストを読んで自分なりに理解してきていることが求められます。課外活動としては、公共選択「学生の集い」（http://www.publicchoice.jp/gakusei/）への参加とテーマリサーチと呼んでいるグループ研究の機会を設けています。公共選択「学生の集い」への参加にあたっては、学会から提示された論題について論文を作成し、大会で報告・ディスカッションします。内向的な本学の学生にとっては、他大学のゼミ生と自分たちを見比べるよい機会になっていると感じています。テーマリサーチでは、グループごとに定めたテーマに関する研究成果を1枚の大きなポスター（A1サイズ）に整理して発表します。また、夏休みと春休みには合宿を行い、課外活動の成果についてプレゼンやディスカッションをし</p> | | | |

たり、地域問題の発見につながるような見学等を実施しています。

これらのほかにも、有志で集まって経済学の勉強会もスタートしています。勉強会では、ミクロ経済学とマクロ経済学、計量経済学の知識の習得を目指します。経済学の知識は演習の内容理解を深めるうえで欠かせない、公務員試験でも（すなわち、政策の企画・立案に携わる人に）求められているからです。



夏合宿の様子



「学生の集い」（東海大学）



卒論発表会

注：プライバシー保護のため画像をぼかしています。

なお、上述した主な活動をまとめると、次のような年間スケジュールになります。

| | (全学年) | (4年生) | (2・3年生) | (全学年) |
|-----|-------|-------|-----------|-------|
| 4月 | 輪読 | 卒論報告1 | | |
| 5月 | 〃 | 〃 | | |
| 6月 | 〃 | 〃 | | |
| 7月 | 〃 | 卒論報告2 | | |
| 8月 | 〃 | 〃 | | |
| 9月 | 〃 | 卒論報告3 | 「学生の集い」報告 | 夏合宿 |
| 10月 | 〃 | 〃 | | |
| 11月 | 〃 | 〃 | 「学生の集い」大会 | |
| 12月 | 〃 | 〃 | | |
| 1月 | 〃 | | グループ研究 | |
| 2月 | 〃 | 卒論発表会 | 〃 | |
| 3月 | 〃 | | 〃 | 春合宿 |

注：就職活動までに実力をつけるべきとの判断から、ゼミ決定次第（2年生夏～）、3、4年生の演習に出席して学習をスタートすることを勧めています。

【学んだことはどのように生かせるのか】

政策の企画・立案に関わる政治家や官僚・行政官、または政策学の研究者を目指さない人もみな、国民・住民であり、選挙にあたっては一票を投じることのできる有権者です。経済学の視点とデータ分析の結果にもとづく政策研究に取り組んだ経験は、自分の一票を誰に託すべきか考えるうえで役に立つはずです。

就職して仕事をしていくうえでも、経済学（非常に理路整然とした学問）の知識は論理的に考える力を、プレゼンやディスカッションは表現力を、レジュメの作成やプレゼンの準備はコンピュータの操作能力を高めてくれているはずです。将来、どのような分野で働くことになっても、その世界で活躍する人材にとって、これらの要素が欠かせないことは明らかだと思います。また、自分自身に一定水準の負荷を課すこと

は、社会に出てから困難に直面したときの対応力を身につけてくれるでしょう。

このように、演習のなかで私が学生に課す活動ひとつひとつには意味があり、直接・間接の違いはあっても、すべてが「将来の力」につながるものだと考えています。もちろん、研究者や政治に関わるような人にとっては、演習で学んだ知識やそこで培われた考える力、分析力といったものは直接役立つものになっているはずですよ。

なお、本ゼミの卒業生には、銀行等をはじめとする民間企業に就職した人だけに限らず、公務員になったり、大学院に進学した人がたくさんいます。

【おすすめの入門書・基本テキスト】

■高校生への推薦書

政策を考えるにあたって、正義や公正について学ぶにはコレ！

- ・ M.サンデル (2010) 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学』早川書房

経済学とはどのような学問か、まずはこれで学んでみては？

- ・ G・E・クレイトン (2014) 『最新版アメリカの高校生が学ぶ経済学—原理から実践へ』WAVE出版

■ゼミ生への推薦書

経済学をはじめて学ぶ人は定番のコレで！

- ・ N.G.マンキュー (2014) 『マンキュー入門経済学 (第2版)』東洋経済新報社
- ・ N.G.マンキュー (2013) 『マンキュー経済学 I ミクロ編 (第3版)』東洋経済新報社
- ・ N.G.マンキュー (2014) 『マンキュー経済学 II マクロ編 (第3版)』東洋経済新報社

公共選択による社会の見つめ方はこれで学べ！

- ・ 川野辺・中村 (2014) 『テキストブック公共選択』勁草書房

政策と財政を学ぶならこれは必読！

- ・ A.L.ヒルマン (2006) 『入門財政・公共政策』日本評論社

中級レベルの経済学のテキストならコレ！！

- ・ 神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社

はじめての計量経済学はこれが読みやすい！

- ・ 白砂堤津耶 (2007) 『例題で学ぶ初歩からの計量経済学』日本評論社

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

ゼミは大学生活のなかで大きなウェイトを占めることになりますので、しっかり調査して選択することが大切です。楽チンだからとか、難しくなそう、楽しそう…という理由でゼミを選んでしまうことはとても危険だと思います。

何を研究したいか、どのような能力を身につけられそうか、よく調査して自分にあったゼミを見つけてください。